

新野東小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○基礎的基本的な知識や技能を確実に身につけ、自ら考え、判断し、表現することができる子どもを育成するための指導の充実
○学習習慣を身につけさせ、根気強く課題に取り組むことができる子どもを育成するための指導方法の工夫

学力向上検討委員会構成

| | | | |
|---------|----|------|-------|
| 学力向上推進員 | 委員 | 校長 | 亦川 隆雄 |
| 宮本 和美 | | 教頭 | 建島 真紀 |
| | | 研修主任 | 山中 史江 |
| | | 教務主任 | 宮本 和美 |

校長 亦川 隆雄

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|--|--|---|--|---|
| ○前学年で身につけるべき基礎的基本的な知識・技能がほぼ身につけている児童が多い。 ●今の学習に既習の知識を十分に活用できていない児童がいる。 | ・基礎的基本的な知識や技能を確実に身につけることができる。 ・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・与えられた課題だけでなく、自分で課題を見つけて取り組むことができる。 | ・ミライシード等、タブレットアプリを効果的に活用し、学習内容の習熟を図る。 ・自主的に自分に必要な復習内容を選び、学習する習慣を定着させるために、朝の活動や自主学習でのタブレット活用を増やす。 ・徳島新聞「阿波っ子タイムズ」を活用し、国語の知識・技能を定着させる。 | ・様々なタブレットのドリル教材を、授業や家庭学習などで積極的に活用する。 ・新聞を活用した自主学習の仕方を指導したり、日記や視写の課題に、「阿波っ子タイムズ」を活用したりする。 | ・算数の学習では、自分の学習状況に応じて内容を自ら選択し、学習できるようになった。 ・新聞の視写や感想文を書く経験を通して語彙を増やしたり、豊かな文章表現をしたりすることができるようになりつつある。 | ・既習内容の定着を図るため、タブレットドリルを有効活用する。個別学習にも対応できるようにする。 ・新聞を読む機会を計画的に設け、国語力の向上を図る。(朝の活動、授業中など) |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|---|--|--|---|---|
| ○自分の思いや考えを全体の場で表現できるようになりつつある。 ●自分の考えを順序よくまとめて書く活動には課題がある。 ●初めて読む長文について、読解することが苦手な児童が多い。 | ・自分の思いや考えを、理由や根拠を明確にして表現することができる。 ・目的に応じてタブレットを効果的に使い、自分の考えを文章に書いて表現することができる。 ・最後まで長文を読み、内容を理解することができる。 | ・縦割り班活動や集会活動をさらに工夫し、自分の考えを全体の場で表現する力を育てていく。 ・紙媒体だけでなくタブレットで長文を読む機会を増やす。 ・学力向上に関する資料集を効果的に活用し、学習の定着を図る。 | ・縦割り班活動や集会活動、全校行事などの場で、自分の意見や感想を伝える時間をつくる。 ・授業中は、手を挙げて発表し、自分の意見をみんなに伝える機会を多くしていく。 | ・全校的な活動の場で、自ら発言できる児童が増えてきた。理由や根拠を明確にし、相手に伝わるような表現ができるようになってきた。 ・オクリンクを使って、自分の考えを文章で表現できるようになった。 ・学力向上に関するプリントを活用することで、初見の長文を読む経験が増えた。 | ・集会など全校的な活動において、児童が意見を交わし合う場面を設定し、全員が発言することを習慣化する。 ・他校との交流を設定するなど、児童が自分の思いや考えを伝える新たな場の工夫をする。 |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|---|---|--|--|---|
| ○他の学年の自主学習ノートを見ることで、自主的に工夫したり内容をよく考えたりする児童が増えた。 ●関連図書を選んでは、読む環境を整えたが、自発的に読もうとする児童が少なかった。 ●自分から進んで課題に取り組むことができていない児童がいる。 | ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、学習に取り組むことができる。 ・教科の学習に関する本を読み、学習を深めることができる。 | ・自分の課題(苦手な内容や復習が必要なこと、新しく学習したこと等)に合った自主学習ができるように、自主学習についての指導を継続する。 ・並行読書への意欲や関心を高めるための工夫をする。(家庭学習・朝の読書に取り入れる等) | ・家庭学習に並行読書を取り入れる。本の貸し出しをして、家庭でも読書の時間を増やす。 ・校内で読書週間を設定したり、朝のスピーチなどで本の紹介をしたりする。 | ・友達自主学習を見る(自主学習コーナー、リレーノートなど)ことで、学習の仕方が分かり、様々な内容に積極的に取り組むようになってきた。 ・日頃から家庭学習に並行読書を取り入れたことで、平日の読書時間が増えた。 | ・読書の幅を広げるために、図書室の活用方法を考える。(読書の時間・雨の日など) ・平日、週末の並行読書に、引き続き積極的に取り組む。 ・自主学習に関する指導方法について教職員間で情報交換し、効果的な取り組みにつなげていく。 |

令和5年度 学力向上ロードマップ

